



## 読者からの声

石川医報の「読者からの声」は、会員がいろいろな意見を交換する場です。  
ぜひ、皆様からのご意見、ご投稿をお待ちしております。  
(編集部より)

### 女性医師の窓

## 病理医として人生

金沢大学附属病院病理 診断科/病理部 池田 博子

阪口先生、吉村先生、横山先生に引き続き、金沢大学附属病院の病理医が担当させていただきます。

まず、自己紹介から。石川県羽咋郡で生まれ、羽咋高校を卒業後、金沢大学薬学部に入學しました。高校時代は将来の夢があったわけではなく、安定した生活をするには手に職が必要と考え、薬剤師への道を選択しました。大学4年の時、強制的に研究室に配属となりました。地味ではありましたが、研究生活をみて、興味をもちました。生まれて初めて、無理をしてもやりたい!!という感情がわき、1年後に金沢大学医学部を受験しました。無事、合格でき、医者になって研究をすることを目標に2度目の大学生活をスタートさせました。当時は一生、結婚しなくてもいいと思っていたので、親に結婚費用を学費にしてくださいとお願いしました。しかし、医学部で現在の主人と同級生となり、1年後に結婚することになりました。子供も生まれました。子育てしながらでしたが、何とか無事医学部を卒業でき、約17年前に医師となりました。そのとき娘は5歳で、主人も同時に研修医となったので、当直のある臨床には進みませんでした。もともと、研究をしたくて医学部に入ったので、研究者が多くいる病理学教室に大学院生として入局しました。二人目、三人目の子供が生まれ、本当に大変でしたが、実母の協力もあり、学位を取得することができました。10年前に現在の職場である金沢大学附属病院病理部に移り、病理医としての仕事を続けています。

現況ですが、主人は内科医として病院に勤務、長女は大学生、妹たちは中学生です。子育てはとても楽になりましたが、言わないようにしていても、忙しい…とため息がでてしまう毎日です。

- 病気で困っている患者さんと治療を行う臨床医に早く、正確な病理診断を届けたい
- これからを担う若手に自分が経験してきたことを教えたい
- 遺伝子、タンパクを調べて、新しい診断法、治療の開発に貢献したい
- 臨床医、病理医とのコミュニケーションを大事にしたい
- カンファレンスや学会で情報、最新の知識を取り入れていきたい
- 職場の環境をよくしたい
- 家族においしいご飯を食べさせてあげたい
- 家族が過ごしやすい家になりたい
- 娘の送り迎えをちゃんとしたい
- 東京にいる長女に会いにいきたい
- 体の弱ってきた両親と過ごす時間を持ちたい
- 温泉でのんびりしたい
- スポーツしたい

- ゆっくり寝たい

と、自分だけが一日100時間になったらいいのに、と願う毎日です。それだけ充実した人生を送れているということだとも思うので、家族や職場の方々には本当に感謝しています。

病理の仕事はおもしろく、組織、細胞がある程度、見れるようになってからは、ますます人体の仕組み、機能と形態の複雑性が不思議で、かつ興味深くなりました。顕微鏡をのぞいていると、無心になれるので、ひととき、生活の煩わしいことなども忘れさせてくれます。大好きな家族と仕事に巡り会うことができ、私は幸せです。拙い文章におつきあいいただき、ありがとうございます。これで終わります。